

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○国語では、繰り返しの練習や家庭学習の習慣付けにより、正しい平仮名、片仮名、漢字の定着を図ることができた。</p> <p>△促音や拗音を正しく捉え、書き表す力が、十分定着しているとは言えない児童がいる。</p> <p>△人の話を最後まで聞く力、伝えたい内容が伝わるように話す力、声の大きさを考えて話す力が十分でない児童がいる。</p> <p>○算数では、既習事項の振り返りを丁寧に行い、繰り返しの練習の時間を設定したことで、繰り上がり、繰り下がりの計算の仕方やその仕組みについて理解を深められた児童が多かった。また具体物や図を活用して考えをまとめられるようになった。</p> <p>△文章問題で問われていることを正確に読み取ることが難しい児童がいる。</p> <p>【第2学年】</p> <p>○国語では、言葉や文字の力を定着させるために、紙のドリルを活用し繰り返し練習する時間を確保してきたことにより、漢字や言葉の力が向上した。(新宿区学力定着度調査「言葉・情報・言語文化」正答率 85.8%)</p> <p>△新宿区の学力調査の結果では、「書くこと」領域の正答率が低かった。自分の考えを文章で表現することに課題がある。(新宿区学力定着度調査「書くこと」正答率 63.0%)</p> <p>○算数では、授業の中でラインを引いたり具体物を操作したりしながら、正しく課題を捉えることや読み取ったことを文章で言う練習を続けてきたことにより、整理したり、読み取る力がついてきた。(新宿区学力定着度調査「データの活用」正答率 87.0%)</p> <p>△反面、具体的な場面を式に表す問題では、正答</p>	<p>●漢字については、紙のドリルやデジタルドリルを活用し、既習事項の定着をさらに確実にしていく。</p> <p>▼正しい日本語への意識を高め、日常の指導の中で正しく書いたり話したりできるように指導する。</p> <p>▼授業中だけでなく、朝の会や給食、休み時間などの場面で、言葉で相手に自分の気持ちを伝える経験を多く積みせ、伝える力を付けさせる。</p> <p>●計算は、紙のドリルやデジタルドリルを活用し、習熟を図るとともに、課題についての自分の考えを図や言葉や式で表す時間を、引き続き確保する。さらに、授業の中で自分の考えを相手に伝える機会を意識的に設けていく。</p> <p>▼文章問題では、分かっていることと問われていることをはっきりさせること、必要に応じて図に表すことを継続的に指導する。</p> <p>●次年度も辞書引きや、紙やデジタルドリルの継続的な活用により、言葉に対する知識の定着と発展を図っていく。</p> <p>▲継続して日記指導を行っていく。さらに、学習の中で自分の考えを文章で書かせる場を意図的に設定していく。</p> <p>●▲算数では、思考・判断・表現の力を高めるために、引き続き課題を読み取ることや、読み取ったことを言葉や図、式で表す機会を多くもつようにする。また、定着を図るために、継続的に紙のドリルやデジタルドリルを活用していく。</p>

率が低かった。(新宿区学力定着度調査「式による表現」正答率 63.9%)

【第3学年】

○国語では辞書を一人一冊用意し、日常の中で辞書引きを推進してきたことで、語彙を増やすとともに、言葉の意味を正しく理解し、活用できるようになった。

(新宿区学力定着度調査正答率 82.7%)

▽全国や区の平均は大きく超えているが、文章の組み立てや順序を正しく捉えて理解し、読み取ったことを基に文章で表現する問題の正答率が低い結果となった。文章構成を理解し、観点に沿って正しく書き表すことに課題が見られた。

(新宿区学力定着度調査正答率 56.7%)

○算数では、ドリルパークやタイムチャレンジなどを通して継続して四則計算に取り組んだことで、概ね定着が見られた。特に、3年生で学習する除法の計算において、成果が見られた。

(新宿区学力定着度調査正答率 88.9%)

▽活用問題において、なぜその答えになるのかを言葉で表現することに課題が見られた。全国や区の平均は大きく超えており、無回答率も低かったが、観点に沿った回答ができていない児童が多く見られた。

(新宿区学力定着度調査正答率 52.4%)

【第4学年】

○国語では、話の聞き方やメモの取り方を指導し、スピーチを継続して行ったことにより、話の中心を意識して、聞き取ることができるようになった。

(新宿区学力定着度調査正答率 90.7%)

▽新宿区の学力調査の結果では、「書くこと」領域の正答率が低く、読み取ったことを踏まえて、文章で表現することに課題がある。区平均と比べおよそ14ポイント低かった。

(新宿区学力定着度調査「書くこと領域」正答率 47.8%)

○算数では、1mを等分した長さを分数で表したり、図を見て正しい分数を選択したりすることができた。

●次年度も辞書の活用を継続的に行うことで、語彙を増やし、言葉に対する知識定着させるとともに、活用できるようにしていく。

▼文章の読み取りを丁寧に行うとともに、資料から大切な語を抜き出す活動を学習の中に取り入れていく。また、その語を活用して文章を書いたり、観点に沿って自分の考えを書いたりする活動を継続して行うようにする。

●引き続きドリルパークやタイムチャレンジなどに取り組むことで、四則計算の定着を図っていく。また、小数や分数の加減法にも継続して取り組み、次年度の学習につなげられるようにする。

▼自分の考えを文章で表す機会を増やすとともに、交流や学び合いの場を多く設けることで表現力の向上を図っていく。また、既習事項を活用して問題解決できるよう、学習活動に取り入れていく。

●話の聞き方を指導し、スピーチや発表の場面を取り入れて、人前で話す経験を積ませる。

▼継続して日記指導を行っていく。更に、授業時に自分の考えを文章で書かせる場を意図的に設定し指導していく。

●分数を具体物を使って表現したり、数直線を使ったりして、視覚的に示すように、引き続き指導していく。

(新宿区学力定着度調査「分数」正答率 97%)

▽新宿区学力調査の結果では、「図形」単元の正答率が低く、主にコンパスを使用して長さを求める問題に課題がある。区平均と比べ、およそ 11 ポイント低かった。

(新宿区学力定着度調査「分数」正答率 55.2%)

【第 5 学年】

○国語では、漢字の学習を継続的に行うとともに、並行読書を推進しており、「漢字の読み」単元は正答率が高かった。

(新宿区学力定着度調査「漢字の読み」正答率 91.5%)

▽新宿区の学力調査の結果では、記述式の正答率が 26.8%と低く、特に「資料を活用して具体的に書き直す」設問での無解答率が 33.8%に達していることが課題である。

○算数では、図形単元の平面図形の面積を求め問題は正答率が高く、正しく身に付いていることが分かった。

(新宿区学力定着度調査正答率 90.8%)

▽図形単元の立体図形の正答率が低く、立方体の展開図で平行な面を選ぶ問題での理解が低い。区と比べて、6.3 ポイント低かった。

(新宿区学力定着度調査正答率 83.1%)

【第 6 学年】

○国語では、話の聞き方やメモの取り方を指導したり、スピーチを継続して行ったりしたことにより、話の中心を意識して、聞き取ることができるようになった。

(新宿区学力定着度調査正答率 92.3%)

▽新宿区の学力調査の結果では、文学的文章の活用に課題がある。区平均と比べおよそ 6.3 ポイント低かった。

(新宿区学力定着度調査文章正答率 47.8%)

○算数では円グラフから読み取る問題や、そこから割合を出す問題といったデータの活用ができるようになった。

▼引き続き、コンパスの扱い方を指導し、長さを写し取る道具であることを指導していく。

●国語では継続して、漢字の学習において「読む・なぞる・書く」を丁寧に行わせる。また、並行読書も積極的にいき、読むことへの抵抗感を減らしていく。

▼無解答率を低下させるために、長文記述の前に「資料からキーワードを抜き出す練習」や「一文での書き直し」を授業において日常的に取り入れ、短い文章から書こうという意欲をもてるように指導する。

●算数では、平面図形の面積を求める公式の理解はある。習熟プリント、単元テストの振り返り、ドリルパークの活用など、基礎・基本の定着を継続して図りたい。

▼立体図形の問題では、展開図を頭の中で組み立てられていないと考えられる。見えない部分を点線で表したり対応する辺や面を色分けしたりと、視覚的に分かるようにする。また、言語化させることで理解を深め、定着を図る。

●話の聞き方を指導したり、スピーチや発表の場面を取り入れたりして、人前で話す経験を積ませる。

▼日々の日記指導だけでなく、文章を選んで、その文章がなぜ良いかを日常的に書かせる場を設定していく。

●算数科の問題だけでなく、社会科に出てくる円グラフや棒グラフも読み取れるようにしていき日常的に触れられる機会を作る。

<p>(新宿区学力定着度調査 86.3%正答率)</p> <p>▽算数では平均の問題で正答率が低い結果になった。</p> <p>(新宿区学力定着度調査正答率 77.5%)</p>	<p>▼授業のなかで、導入で必ず「ならず活動」を入れる。理科の測定値や体育の記録などで平均を求める機会を作る。</p>
---	---